第 2 講 【古代編】西アジアと地中海世界の特質
PART1 イラン文明の興亡

Chapter1　アケメネス朝ペルシア

目標
アケメネス朝ペルシアで中央集権制を可能にした仕組みを理解しよう。
ゾロアスター教は後世にどのような影響を与えたのだろうか。

1　アケメネス朝ペルシアの興亡

前 6 世紀半ば　インド = ヨーロッパ語系ペルシア人（イラン人）の**キュロス 2 世**が
〔　　　　　　　　　　〕**ペルシア**をおこす

前 538 年　ユダヤ人をバビロン捕囚から解放

前 525 年　エジプトを征服し，オリエントを再統一

第 3 代王〔　　　　　　　　　　〕（在：前 522 年～前 486 年）の時代に，

エーゲ海沿岸からインダス川に至る大帝国となる

①中央集権制による統治

A　全土を 20 州に分割し，〔　　　　　　　　〕（知事）を任命

B　州の行政や情報を収集する〔　　　　　　　　　　〕と呼ばれる監察官を巡回させた

C　全国の要地を結ぶ〔　　　　〕と呼ばれる国道により**駅伝制**を整備

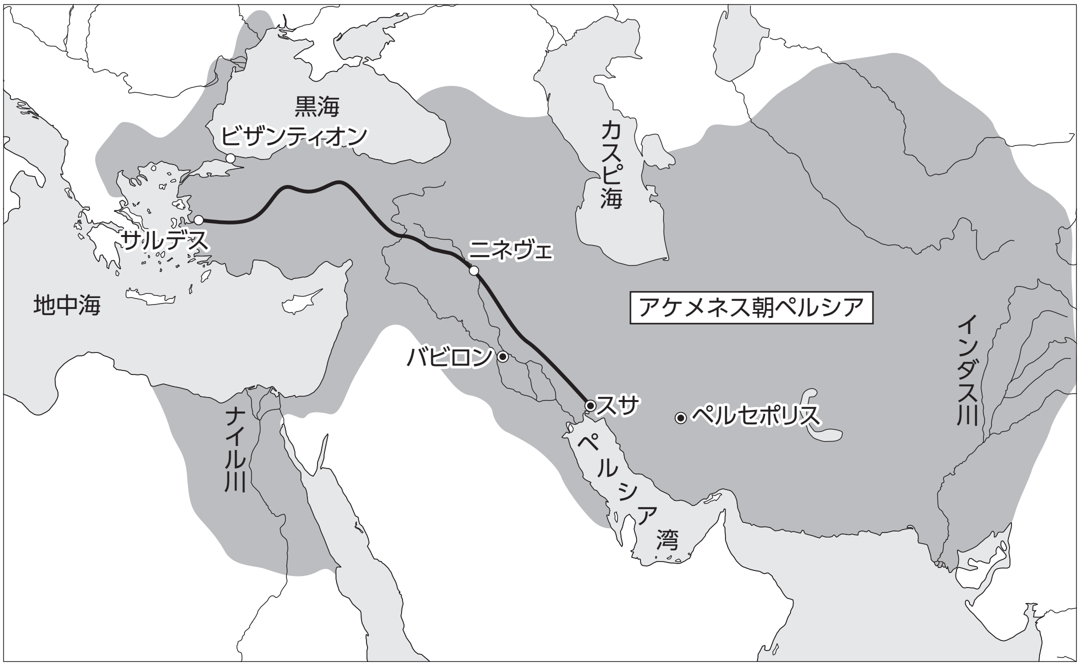
②帝国内のアラム人・フェニキア人・ギリシア人などの交易保護，金貨・銀貨の発行による財政基盤の確立

③公式行事のための新都〔　　　　　　　　〕を建設

→国内全土の諸民族から貢納のための使節が集まった

④軍役と貢納の義務をはたす異民族への寛容な支配

→それぞれの法や宗教を尊重



アケメネス朝ペルシア

2 ゾロアスター教

ペルシア人の民族宗教は〔　　　　　　　　　　〕。

→火を神聖な象徴として崇拝するので〔　　　　〕教とも呼ばれる

※ゾロアスターによって前7世紀頃までには成立したとされる。

ゾロアスター教の特徴

①世界は善（光明）の神アフラ＝マズダと，悪（暗黒）の神アーリマン（アンラ＝マンユ）とが抗争する場所

②終末には善が勝利して，最後の審判によって善き人の霊魂は天国に導かれる

→〔　　　　　　　　　〕

※『最後の審判』の終末思想や「天国」などの観念は，その後のユダヤ教・キリスト教・イスラーム教の一神教に大きな影響を与えたとされる。

※南北朝時代の中国にも伝わり，けん（祆）教と呼ばれた。

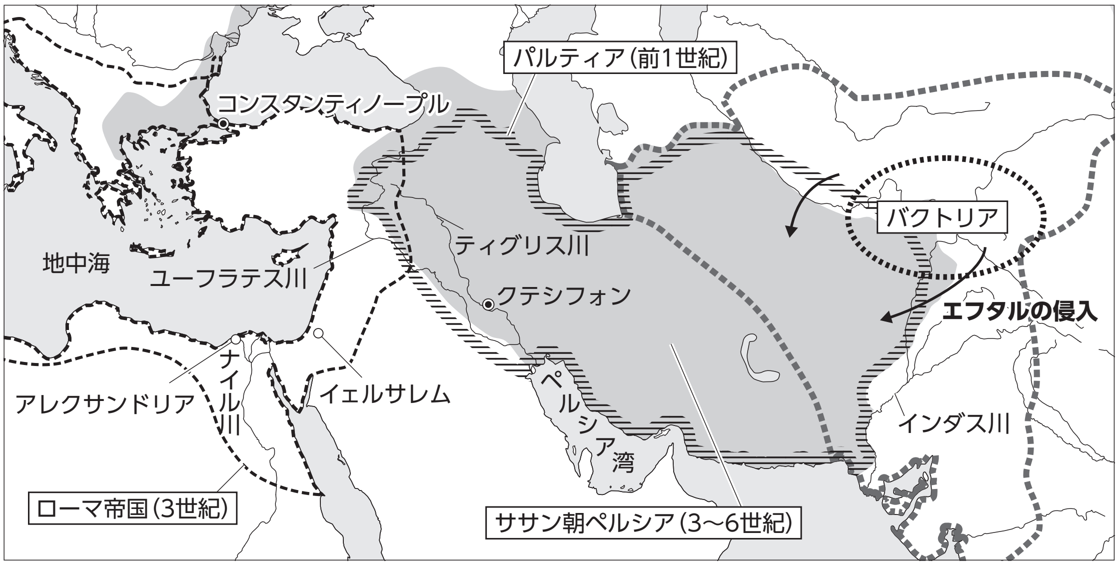
まとめ

アケメネス朝ペルシアは,各地にサトラップ（知事）を派遣し「王の目」「王の耳」がこれを監察したことで中央集権制を成立させた。
ゾロアスター教の善悪二元論や終末思想の考え方はユダヤ教・キリスト教・イスラーム教の一神教に影響を与えることになった。

Chapter2　パルティアとササン朝

目標
パルティアがどのように建国され滅亡していったのか学ぼう。
ササン朝最盛期の対外政策について理解しよう。

1　バクトリアとパルティア



バクトリア・パルティア・ササン朝の勢力図

前330年　マケドニアのアレクサンドロス大王によりアケメネス朝ペルシア滅亡
→エジプトから西アジア～インド北西部に至る大帝国が出現するが，大王の死後，ギリシア系の〔　　　　　　　　〕朝に受け継がれた

前3世紀中頃　アム川上流域のギリシア人が独立して**バクトリア**を建国
※バクトリアは前145年，大月氏の攻撃により滅びたとされる。
カスピ海南東部に遊牧イラン人族長の**アルサケス**が
〔　　　　　　　　〕を建国

前2世紀中頃　パルティアがメソポタミアを併合
A　ティグリス川中流域に首都**クテシフォン**を建設
B　パルティアは「絹の道」(〔　　　　　　　　〕)の中継貿易で栄えた（中国名は**安息**）
※アケメネス朝の統治制度を受け継ぎ，ペルシア系やギリシア系のヘレニズム文化も栄えた。

2　ササン朝ペルシア

224 年　アルダシール１世に率いられたイラン高原南部のペルシア人（イラン人）が
パルティアを倒し，〔　　　　　　　　〕ペルシアをおこす。クテシフォンを首都，
ゾロアスター教を国教とした

①第２代皇帝シャープール１世（在：241 年～272 年）
西方ではシリアに侵入してローマ帝国と対抗し，東方ではインダス川西岸までの地域を
統合→中央集権的体制による統治

②〔　　　　　　　　　　　〕（在：531 年～579 年）
A　５世紀に中央アジアの遊牧民**エフタル**の侵入を受けたが，トルコ系遊牧民突厥と結び
これを滅ぼす
B　東ローマ帝国（〔　　　　　　　　　　　〕）との抗争でも優位に立った

3　イラン文明の特徴

１世紀頃　ギリシア文化の影響が強かったパルティアでイランの伝統文化が復活
→ササン朝では建築・美術・工芸が発達し，インドやギリシアの影響を受けつつ
もペルシア語を用いたりイランの伝統を意識した文化に

３世紀　ササン朝ペルシアの興隆で国教となったゾロアスター教の経典
〔　　　　　　　　　　　〕が編さんされた一方，ゾロアスター教・仏教・キリ
スト教の要素を融合した〔　　　　　　〕がおこる

建築・美術・工芸の発達と伝播
ササン朝ペルシアは，東西交易など諸地域のヒトやモノが行き交う広大な領域を統治した
→ヘレニズム様式や周辺の文化の諸様式を取り入れた〔　　　　　　　　〕**美術**が発達
※技術や様式は，西はビザンツ帝国から地中海世界，東は中国～日本に伝えられた。

まとめ

パルティアはイラン人のアルサケスにより建国されたが，ササン朝ペルシア
により滅ぼされた。
ホスロー１世の時代に最盛期を迎え，突厥と協力しエフタルを滅ぼし，また
ビザンツ帝国と抗争した。

第２講　PART1　確認問題

1 ペルシア人（イラン人）が分類される語族系統は何か。

① アフロ＝アジア語族　② インド＝ヨーロッパ語族
③ ドラヴィダ語族　④ アルタイ語族

2 アケメネス朝ペルシアの第３代の王で，エーゲ海沿岸からインダス川に至る大帝国を築いたのはだれか。

① ネブカドネザル２世　② キュロス２世
③ ダレイオス１世　④ ソロモン

3 アケメネス朝ペルシアが広大な領土を分割して各州に置いた統治官を何というか。

① サトラップ　② 王の目
③ ペルセポリス　④ スサ

4 前７世紀頃までには成立したとされるペルシア人の民族的宗教は何か。

① ユダヤ教　② バラモン教
③ マニ教　④ ゾロアスター教

5 アケメネス朝ペルシア滅亡後，メソポタミアを併合して東西交易で栄えた国はどこか。

① リディア　② 新バビロニア
③ バクトリア　④ パルティア

6 ３世紀中頃に広大な領域を治めたササン朝ペルシアの第２代皇帝はだれか。

① アルサケス　② アルダシール１世
③ シャープール１世　④ ホスロー１世

7 ５世紀後半にササン朝ペルシアに侵入した中央アジアの遊牧民は何か。

① エフタル　② バクトリア
③ 突厥　④ 匈奴

8 ３世紀に編さんされたゾロアスター教の経典は何か。

① 死者の書　② ヴェーダ
③ アヴェスター　④ 最後の審判

第 2 講　PART 1　確認問題　解答

1 解答：②　ペルシア人（イラン人）は**インド = ヨーロッパ語族**に分類される。

2 解答：③　アケメネス朝ペルシアの第 3 代の王は**ダレイオス 1 世**で，オリエントを再統一した。

3 解答：①　ダレイオス 1 世は全土を 20 州に分割して，各州に**サトラップ（知事）**を置いて統治した。

4 解答：④　ペルシア人の民族宗教である**ゾロアスター教**は，**拝火教**ともいわれる。

5 解答：④　メソポタミアを併合した**パルティア**は，シルクロードの中継貿易で栄えた。

6 解答：③　**シャープール 1 世**は，西アジアからインダス川西岸までの広大な地域を統合し，中央集権的な体制で統治した。

7 解答：①　5 世紀後半にササン朝ペルシアに侵入したのは遊牧民の**エフタル**である。

8 解答：③　ゾロアスター教の経典を『**アヴェスター**』といい，ササン朝ペルシアの時代に編さんされた。